

## 平成27年度「医療費の動向」

日本薬剤師会の第49回学術大会は10月の9日、10日の両日、愛知県の名古屋国際会議場をメイン会場に全国から約1万人の参加者を迎えて行われました。患者本位のかかりつけ薬局、健康サポート薬局など薬剤師への世の中の期待が高まっている中、薬剤師自らが社会的な使命を再認識し、その職能を見つめ直す有意義な大会になったものと確信しています。

また、9月末に開会した第192回臨時国会は、平成28年度第2次補正予算案の審議を行い、今日4日の衆議院予算委員会及び本会議での可決に続いて、11日の参議院予算委員会及び本会議で可決・成立しました。今回の補正予算における一般会計の追加歳出は、1億総活躍社会の実現の加速に約7,119億円、21世紀型のインフラ整備に約1兆4,056億円など総額4兆1,143億円となっています。8月に閣議決定した「未来への投資を実現する経済対策」をより実りあるものするためにも一刻も早い事業実施が望まれます。

さて、厚生労働省は9月13日に平成27年度「医療費の動向」を発表しました。本調査は医療費の動向を迅速に把握するため、医療機関からの診療報酬請求に基づき医療保険及び公費負担分医療分の医療費を集計したもので、労災や全額自費等の医療費を除いたものの速報値であり、概算医療費と呼称されているもので、国民医療費の約98%を占めるものと推測されています。

平成27年度の概算医療費は、前年度に比べ3.8%、1.5兆円増の41.5兆円となり、概算医療費額としては初めて40兆円を超えました。医療費の内訳を診療種類別に見ると、入院16.4兆円、入院外14.2兆円、歯科2.8兆円、調剤7.9兆円となっています。また、同日公表された平成27年度の電算処理分のレセプトを集計した調剤医療費（電算処理分）では、7兆8,192億円と前年度に比べ9.3%増となっています。その内訳は技術料が3.4%増の1兆8,283億円、薬剤料が11.3%増の5兆9,783億円となり、治療効果の優れたC型肝炎治療薬などの増加が調剤医療費を押し上げる主な要因になったものと思われます。

今春の診療報酬改定では、年間販売額が1千億円を超える医薬品について、特例的な市場拡大再算定を行い大幅な価格の引き下げが実施されました。さらに最近の中医協専門部会では、がん治療の画期的新医薬品の使用による高額な医療費問題が取り上げられ、最適使用推進ガイドラインの策定とともに、次期の薬価改定を待たずに価格を引き下げることにも議論され、その取り扱いに関心が寄せられています。

我が国の高齢化が一層進み、医療が益々高度化する状況にあつて、医療の充

実と適正化を如何にすべきか、抜本的な議論が求められています。